

①

秋の城

山は赤松

ばかり哉
かな

③

社壇百級
しゃだんひゃつぎゅう

秋の空へと
のぼ

②

牛行くや

毘沙門阪の
びしゃもんざか

秋の暮
くれ

④

狸死に
たぬぎ

狐留守なり
きつね

秋の風

⑤

堂崩れて
どうくず

地藏残りぬ
じざう

草の花

散策ガイド

御幸寺山麓コース

(明治二十八年九月二十一日)



⑨

草の花

練兵場は
れんべいじょう

荒れにけり

⑧

畫をかきし
え

僧今あらず

⑩

人もなし

杉谷町の

藪の秋
やぶ

⑥

静かさに

礫うちけり
ついで

秋の水

⑦

山本や
やまもと

寺は黄檗
おうばく

杉は秋



みどころ

当時の毘沙門阪の様子を想像しつつ、ロープウェイ通りを歩いてみよう。



■ 県立松山病院
現在の松山東雲中学・高等学校の場所に、当時、県立松山病院が建っていました。この病院は、大正二年に松山赤十字病院に変わり、その後、赤十字病院の移転に伴い、松山東雲中学・高等学校の前身である私立松山女学校が建てられました。



▲ 昔の松山東雲高校
(『創造都市まつやま』より)

▲ 昔の松山城
(愛媛文化双書刊行会発行 『子規と松山』より)

① 秋の城

山は赤松
ばかり哉
かな

城山を見上げると、山一面に赤松が生い茂っていた様子を表しています。

■ 当時の城山

当時の城山には、赤松が多く植えられていました。
しかし、昭和三十年代にマツクイムシの被害にあい、ほとんどなくなってしまうました。平成十七年の松山市の調査によれば、城山の赤松の数は約七十本となっています。

みどころ①

昔の城山を想像しつつ、今の城山を見てみよう。



▲ 赤松の木立 (イメージ図)

② 牛行くや

びしゃもんざか
毘沙門阪の
秋の暮
くれ

毘沙門阪に差し掛かると、沿道を牛が引かっていた様子を詠んでいます。

■ 毘沙門阪

ロープウェイ通りの坂の上は、松山城の鬼門にあたるため、毘沙門天が祀られていました。このことから、このエリアは毘沙門阪と呼ばれていました。

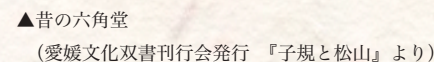
このエリアは、当時、城下町と農村の接点に位置しており、牛の行き来もあったようです。



▲ 農業を手伝う牛 (昭和30年代)
(『創造都市まつやま』より)

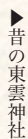


東雲神社や六角堂の
境内を訪ねてみよう。



秋の空へと

登る人のぼ



『ふるさとの想い出写真集 松山』より）

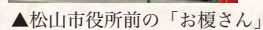
空へと登ると詠まれるほど長い石段を登ってみよう。

たぬき
狸死に

きつね
狐留守なり

秋の風

六角堂と稲荷神社が相
並びながら狸と狐を祀つ
ている様子を見てみよう。



3

地蔵堂エリア じぞうどう



※県道 20 号線は交通量が多いため、裏道を散策することをお勧めします。



みどころ

昔の街並みの写真と
今の街並みを比べなが
ら、歩いてみよう。



▲現松山大学からみた街並み (大正 12 年頃)
(『創造都市まつやま』より)

⑤ 堂崩れて じぞうどう

地蔵残りぬ
草の花

当時の地蔵堂が荒れ果ててしまっ
いた様子がうかがえます。

地蔵堂

地蔵堂とは、道後一万地蔵の
ことです。
松山城を建てる時、お城下を
守るために城下の出入口六ヶ所
に置かれた地蔵の一つです。

みどころ④

歴史あるお地蔵
様を見てみよう。



▲昔の地蔵堂
(愛媛文化双書刊行会発行『子規と松山』より)

⑥ 静かさに つぶて

礫うちけり
秋の水

秋の冷ややかに澄んだ川の水に小石
を投げ込んだ様子を表しています。

大川

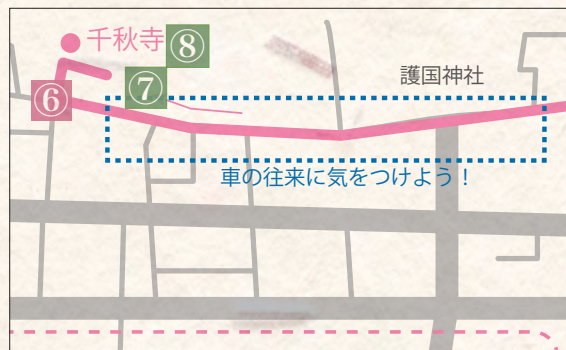
小石が投げ込まれた川は大川
のことです。
子規たちが通った道は、石手
寺から太山寺に続く遍路道で、
当時は道幅も狭く、草かくれに
流れる大川の水も澄んでいまし
た。

みどころ⑤

昔の大川の写真
と今の川の様子を
見比べてみよう。



▶当時の大川の様子
(愛媛文化双書刊行会発行『子規と松山』より)



みどころ

当時の面影を残す、子規
ゆかりの場所 千秋寺の山
門や月台を見てみよう。



▲昔の千秋寺の様子
(千秋寺保管の絵巻より)



▶月台(げったい)

⑦

山本や

やまもと

寺は黄檗

おうぼく

杉は秋

御幸寺山の麓にある千秋寺と杉並木
について詠った俳句です。

⑧

書をかきし

え

僧今あらず

寺の秋

子どもの頃から縁のあった周道和尚
を子規が懐かしく思っている様子があ
げられます。

■ 千秋寺

千秋寺は、黄檗宗の名高いお
寺で、一六八〇年代に松山四代
藩主松平定直が建設しました。
山門の「海南法窟」の額は、中
国の僧である即非の書と言われ
ており、重要文化財になってい
ます。

みどころ⑥

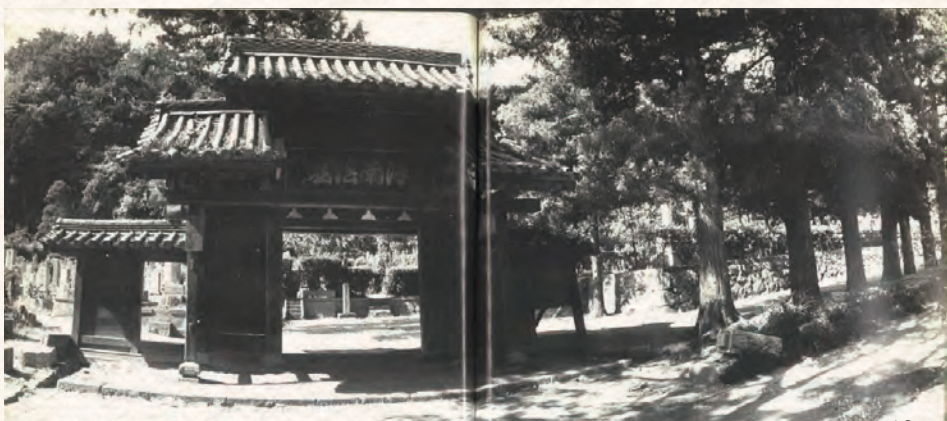
当時の千秋寺の
写真と今の様子を
見比べてみよう。

■ 周道和尚

「書をかきし僧」とは、千秋寺
の住職であった周道和尚のこと
です。

周道和尚は、南画をよく書いた
そうで、子規の母方のおじい
さんである大原観山や、子規が
書を習っていた武知五友との共
同作品もある、子規もよく知る
人物でした。

ただ、周道和尚は、子規が散
策した時の九年前に亡くなっ
ています。



▶昔の千秋寺の山門と杉並木
(愛媛文化双書刊行会発行『子規と松山』より)



みどころ

昔の田畑や野原が広がる静かな風景を想像しつつ、子規の歩いた道を歩いてみよう。

城北練兵場
じょうほくれんぺいじょう

城北練兵場は、現在の堀之内に兵舎があつた歩兵第二十二連隊が訓練をする場所でした。

城北練兵場は、現在の松山赤十字病院や東中学校から、愛媛大学城北キャンパス、松山北高運動場や松山大学に及ぶエリアにありました。当時、兵事に使用していた時は、一般の通行が認められていたそうです。

みどころ⑦

昔の写真と今の様子を見比べてみよう。



▲現松山大学からみた城北練兵場（大正12年頃）（『創造都市まつやま』より）

⑨

草の花

れんぺいじょう

練兵場は

荒れにけり

愚陀仏庵に帰る際に通った城北練兵場が、雑草が生い茂って荒れていた様子を表しています。

⑩

人もなし

杉谷町の

藪の秋
やぶ

秋の暮れ、杉谷町を通ると、人影もなく、竹藪が生い茂っていた様子を表しています。

杉谷町

杉谷町とは、現在の緑町のことです。武家屋敷が取り壊された後、崩れかけた建物や土塀が残り、畑や竹藪が広がる人通りの少ない場所でした。



▶昔の杉谷町

（愛媛文化双書刊行会発行『子規と松山』より）